

新型コロナ「第3波」は「第2波」の倍、日々3000人を超す感染拡大となっている。

医療・暮らし・事業を守るために、医療介護機関への減収補てん、大規模なPCR検査、自粛と補償、相談・対応体制の充実を。

## コロナ禍をのり越え、42回福岡県人権問題研究集会開く

# 「ジェンダーと憲法9条・24条、ケアの価値」を学ぶ



人権連福岡県連などで構成する福岡県人権問題研究集会実行委員会（三輪俊和実行委員長）は11月21日、サンレイクかすやを会場にコロナ「3密」対策に配慮して、第42回研究集会を開催、参加規制の中、4百人が参加しました。

午前中の全体会主催者あいさつで三輪実行委員長は「コロナ禍の下で一堂に会して、例年と同じ形式で人権問題研究集会が開催されたことを一緒に喜び、誇りにしよう」と力強く宣言、参加者にエールを送りました。

今回の記念講演はフェミニズム（男女同権）の政治学が専門の岡野八代同志社大学教授が「ジェンダー格差と憲法9条・24条の今日的意義」の演題で90分間、講演しました。

戦後、73年経ったが、いまだに日本社会は「男尊女卑」までとは言われないが、基本的には男社会である。ジェンダー格差指標では、世界153各国中121位と低い。

記念講演で岡野教授は、冒頭、杉田水脈議員の「子供を生産しないLGBT（性的少数者など）への支援の度が過ぎる」との発言にふれ、「憲法は個人の尊厳を最大限認めることを国会議員らに命じている。杉田議員の発言は憲法を踏みこじる暴言と批判しました。憲法9条と24条の重要性について「9条は、戦争動員など国益を人権に優先させることへの抵抗権で、国家を個人の上に置くことを禁じている。24条は性別役割分業を強要、人的関係に男女長幼の関係を埋め込むことに対する抵抗権」と語りかけ、「私たちが個人としての『個』を豊かにすることが、抵抗権に実効性をもたせることになる」と強調しました。

さらに岡野教授は、このコロナ禍が、ケア労働という生活や命に不可欠な労働が貶められていたことを皮肉にも証明したと指摘。

「いま私たちに求められていることは、もっとも人間らしい営みのケア労働を政治の中心にもとめて立ち上がることです」と訴え、講演を締めくくりました。

午後の分科会は映画「ビリーブ」を鑑賞。今年9月に87歳の高齢で死去した米国最高裁判事のルース・ベイダー・ギンズバーグさんが若い弁護士時代に、女性の権利獲得を法廷で争い逆転勝利した実話の映画化。

終演時、会場から期せずして拍手が沸き起こりました。人権問題分科会では2022年に全国水平社創立百年を迎えることから部落問題研究所の西尾泰広理事が「百年の歴史と部落問題解決の現状を検証」。全国人権連の植山光朗事務局次長が「法務省『6条』調査結果」を特別報告しました。



## 「全国水平社」創立の時代背景 — 1921年を振り返る

全水100周年を迎え、考えること⑨

2021年、「全国水平社創立百年」の1年前の新年を迎えた。この年初にあたって、今から百年前、つまり全国水平社創立の前年の1921（大正10）年とはどんな年だったのか、少し振り返ってみよう。

第一次大戦終結（1918年）後の「戦後デモクラシー」の時代（ただし日本は「シベリア出兵」という名の対ロシア侵略戦争を継続中）。欧州で幾つかの君主制が崩壊するなど世界的な君主制危機の時代であり、日本でも大正天皇の病状は重く、体制側の次期天皇・裕仁皇太子への期待が高まるなか、3月9日に

欧州訪問を成し遂げた裕仁は、帰国後の11月摂政に就任する。またこの年には安田財閥の創始者・安田善次郎（9月）、そして原敬首相（11月）と続けて、右翼により暗殺されてしまう。

一方「大正デモクラシー」の風潮も高まりを見せていた。羽仁もと子が自由学園を創立（4月）、堺真柄・伊藤野枝・山川菊栄らが社会主義女性団体の赤瀾会を結成（同月）、柳原白蓮が夫のもとを去って宮崎龍介と一緒に（10月）など、女性たちも行動を始めていた。日本労働総同盟友愛会（1912年結成の友愛会が19年に大日

本労働総同盟友愛会と改称、20年に「大」を削除）が日本労働総同盟と改称し、労働運動も活発化していた。関西では大阪電燈会社争議（4月）を皮切りに労働争議が続発、戦前最大とされる神戸の川崎・三菱造船所の争議が起こる（7月）。自由法曹団が結成されたのもこの年である（8月）。

こうした「デモクラシー」の高まりのなか、部落問題をめぐっても新しい動きが起こり、はげしいせめぎ合いも起きていた。2月に帝国公道会（1914年創立の融和運動団体）が東京築地本願寺で開催した第2回同

### コロナ禍の社会、人権確立へ

新しい年を迎え、本部役員一同心新たに諸課題に奮闘する決意です。

ご支援ご協力のほど、お願いいたします。

代表委員  
丹波正史、中島純男、植山光朗、丹波史紀、吉岡昇

常任幹事  
加藤哲生、川口伊智子、清水信江、前田武

橋本忠巳、吉村駿一  
事務局長 新井直樹  
事務局次長

### 訂正とお詫び

12月15日号1面の全水連載⑧の文中、和歌山水平社初代委員長の正しい氏名は、高橋善忠です。訂正ならびに関係者にお詫びいたします。